

# 実感に根ざした教育をめざして ——現地集合を取り入れた宿泊学習の一例——

足利市立毛野南小学校 家住伸司

## | 体験学習の特色

体験学習の持っている第一の特色は、体験学習で取り扱う学習内容の決定と選択をめぐって考えられるものである。即ち、体験学習で取り扱われている学習内容は、科学や学問の成績を反映していると考えられる「教科」に係わっているものではなく、子供たちの「生活」に係わっているものである。ここでの「生活」という概念はかなり広いもので、子供たちが生活を通して「経験するもの」と言った意味である。学校での意図的学習活動であるから、体験学習で取り扱う題材は「経験するもの」から選択し再構成したものとなっている。即ち子供たちが生活の中で経験する物のうち、教育的に意味があり、かつ子供たちが「自分でも働いてみたい、調べてみたい、楽しんでみたい」と感じる題材が選ばれている。即ち三つの領域で実施されている例が多い。一つは、栽培活動や飼育活動の例にみられるような生産活動に係わる領域である。これらは、一般的には、いわゆる勤労体験学習に係わる学習内容の動に係わる領域である。他の一つは、地域の文化施設を活用しての学習やお祭りについての学習の領域である。他の一つは、郷土学習に係わる学習内容である。また、その延長上にあるものとしての総合学習的なものも考えられる。もう一つは、「楽しさを味わわせるグループ活動」のような余暇活動に係わるものであり、遊びがその中心となっている領域である。

体験学習の持っている第二の特色は、体験学習で用いられる学習方法を巡って考えられるものである。即ち、教科の学習のように「頭」を用いて学習するのではなく、「手」や「足」、即ち「体」を用いて学習していると言える。教室での学習は一般的には頭脳を用いた思考活動が中心であるのに対して、体験学習では手や足を使って、まさに「身体で感ずる」体験活動である、と考えられる。

ここでも三つの領域が考えられる。一つは、実際に畑に出て、柔で土を耕し、種をまき肥料をやり、草を取り除いて、収穫を得るといった「学習の労働化」をはかった領域である。他の一つは、実地に調べ歩き、聞き取り、生産活動に係わる領域にみられる学習方法である。もう一つは、実際に物を作ってみたり、楽しんでみたりする領域にみられる学習方法である。余暇活動に係わる領域にみられる学習と言った「学習の娯楽化」をはかった領域である。余暇活動に係わる領域にみられる学習方法である。

# 実感に根ざした教育をめざして ——現地集合を取り入れた宿泊学習の一例——

足利市立毛野南小学校 家 住 伸 司

## I 体験学習の特色

体験学習の持っている第一の特色は、体験学習で取り扱う学習内容の決定と選択をめぐって考えられるものである。即ち、体験学習で取り扱われている学習内容は、科学や学問の成果を反映していると考えられる「教科」に係わっているものではなく、子供たちの「生活」に係わっているものである。ここでの「生活」という概念はかなり広いもので、子供たちが生活を通して「経験するもの」と言った意味である。学校での意図的学習活動であるから、体験学習で取り扱う題材は「経験するもの」から選択し再構成したものとなっている。即ち子供たちが生活の中で経験する物のうち、教育的に意味があり、かつ子供たちが「自分でも働いてみたい、調べてみたい、楽しんでみたい」と感じる題材が選ばれている。即ち三つの領域で実施されている例が多い。一つは、栽培活動や飼育活動の例にみられるような生産活動に係わる領域である。これらは、一般的には、いわゆる勤労体験学習に係わる学習内容の領域である。他の一つは、地域の文化施設を活用しての学習やお祭りについての学習のような地域の文化活動に係わる領域である。あるいは、郷土学習に係わる学習内容である。また、その延長上にあるものとしての総合学習的なものも考えられる。もう一つは、「楽しさを味わわせるグループ活動」のような余暇活動に係わるものであり、遊びがその中心となっている領域である。

体験学習の持っている第二の特色は、体験学習で用いられる学習方法を巡って考えられるものである。即ち、教科の学習のように「頭」を用いて学習するのではなく、「手」や「足」、即ち「体」を用いて学習していると言える。教室での学習は一般的には頭脳を用いた思考活動が中心であるのに対して、体験学習では手や足を使って、まさに「身体で感ずる」体験活動である、と考えられる。

ここでも三つの領域が考えられる。一つは、実際に畑に出て、桑で土を耕し、種をまき肥料をやり、草を取り除いて、収穫を得るといった「学習の労働化」をはかった領域である。生産活動に係わる領域にみられる学習方法である。他の一つは、実地に調べ歩き、聞き取り、資料を集め、まとめるといった「学習の作業化」をはかった領域である。郷土学習に係わる領域にみられる学習方法である。もう一つは、実際に物を作つてみたり、楽しんでみたりすると言った「学習の娛樂化」をはかった領域である。余暇活動に係わる領域にみられる学習方法である。

体験学習の持っている第三の特色は、体験学習のためのプログラムの立案や運営をめぐって考えられるものである。どの学校を取っても、体験学習ができるかぎり子供たちの主体性、自立性にまかせていきたい、と考えている。プログラムの立案から実施までも含んで、子供たちの積極的な参加を求めている。できることなら、子供たちの自主管理にまかせたい、としている。そのことによって、子供たちが「自分たちのプログラム」であると感じ取ってくれることを期待しているのである。このことは子供たちばかりでなく、教師についても言えることで、「教師が燃えずして、どうして子供たちが燃えようか」と言った表現となって表われてきていることである。教師の役割は教室での学習以上に機敏なものである、と感じられている。一方で子供たちの主体的「参加」を促しながら、他方で子供とともに喜びを分かち合う必要があるからである。

「体験学習」の研究紀要を参考にすると、このように三つの特色が共通してみられる。言い換えると、優れた体験学習はこれら三つの特色をもっているものである、といえそうである。しかし、このことだけで体験学習が素晴らしいものになるという保証はない。何か、学校が体験学習にかけている「意気込み」のようなものが、感じられなくてはならない。即ち、学校全体の教育課程の中で、体験学習を強く位置付け、その意義をはっきり認めている、といった学校の姿勢こそが大切なことなのである。

## II 体験学習は、問題解決能力を高める

体験的活動を組織的に展開することを通して、問題を解決したり、状況の変化に主体的に対応する能力を育てることができる。例えば、学校の近くの通学路の清掃などの奉仕をする活動一つを取り上げてみても、計画、準備、実施、反省などの過程で、大小様々な課題に直面し、それを解決していくかねばならない。体験的活動においては、こうした課題を単なる仮定ではなく、現実的に解決していくのである。場合によっては教師が援助することはあっても、原則的には児童自身取り組むのが望ましいのであるから、この過程を通して、

- ① 問題状況についての事実認識
- ② 触れ合う人々の気持ちへの共感的理解
- ③ 問題状況に対応できる自分の技能の検討
- ④ 活動の結果の予測
- ⑤ 友達と協調していくことのできる協調性などの能力

を、身につけることができるのである。

これらの問題解決能力は、体験的活動が児童一人の単独の活動でなく、集団活動として展開される場合に、より良く發揮される。これは心理学的にも検証されている。

一定の問題解決を要する場面について、

- (1) 個人作業と団体作業を比較すると、明らかに後者が早く、しかも正確に問題解決ができる。

- (2) 同じ集団作業を比較すると、同等の知的発達段階の児童同士よりも、異なる発達段階の児童同士のほうがよい成績を上げる。

このことは、児童が体験的活動に取り組む場合、ある種の葛藤があるほうが問題解決への意欲が高まることを示しており、活動のグループ編成の仕方などについて示唆を得るのである。例えば、1～6学年を通しての縦割りの集団の編成は、縦の人間関係の体験不足を補うとともに、成員の問題解決能力を高める優れた方法である。

### III 本校における宿泊学習全体構想

#### 1. ねらい

- (1) 集団宿泊生活を通して、社会生活の基本を身につけさせ、さらに平素の生活を改善していく変容の芽を育てる。
- (2) 自分を見つめ、自分を支えてくれる人々への感謝の気持ちを育てる。
- (3) 初秋の自然の美しさにふれさせ、季節感を感じ取らせる芽を育てる。

## 2. 指導の構想

教毛  
育野  
活南  
動小  
改学  
善校  
構想

参  
加  
充実感

(指導方針)

(指導の場)

◎ 一人一人の子供を認める  
(あたたかく)――

- ・さりげない行動のそこにある美しい心を認める
- ・自他の気付かなかった新しい面の発見を援助し、友人や家族を多様な面から見る態度を育てる。

◎ 一人一人の子供に学習を成立させる  
(なかよく)――

- ・他に迷惑を掛けないことの心地良さを実感させる
- ・協力し、やるべきことはやらせる
- ・失敗を大切にし、原因を考えさせる

◎ 一人一人の子供に、責任ある行動を取らせる  
(つよく)――

- ・「誰かがやるだろう。後で…」を許さない
- ・やるべきことを自分で判断させる  
(5分前行動)

・事前

・野外活動

・係活動

・所内の生活

・朝夕の集い

・事後

(その他適宜  
指導)

・交通ルール

・車内マナー

感動にねざした教育

――自ら学ぼうとする学習意欲の喚起――

指標

がんばりぬく力・思いやりの心

## IV 宿泊体験学習指導計画

足利市立毛野南小学校

種 別	5・6学年宿泊学習	担 当	5・6学年担任
実施期日	10月下旬	参加学年	5・6年生
場 所	東毛少年自然の家	所要時間	事 前 5時間 当 日 11時間 事 後 1時間
目 標	1. 集団宿泊学習を通して、社会生活の基本を身につけさせ、日常の生活をより良く改善しようとする気持ちを育てる。 2. 大自然の中で自分を見つめ直し、自分を支えてくれる人達への感謝の気持ちを育てる。 3. 秋の自然の美しさに十二分に浸らせ、季節感を感じ取れる心情を育てる。		
	指 導 事 項	留 意 点 ・ 備 考	
事 前	(1時) • 宿泊学習の意義と課題についての指導 (担任のみ)  (2・3時) • グループミーティング しおりの配布 (担任のみ)  (4時) • 係別打ち合わせ (引率教師全員)	◎ ねらい・計画について知らせ、意義を理解させる。 • 活動プログラムを参考に、各自の課題をつかませる。  ◎ グループ編成と打ち合わせ (5・6年の1組、2組同士の生活班を2つ組み合わせて一つの班とする。) • メンバーの確認と自己紹介  ◎ グループラリー計画書の作成 • 指令書NO1記入 (班長) • キャンドルファイヤーのだし物の相談(レク) • 持ち物の分担 (生活)  ◎ 各係長の選出 (各係) • 仕事の確認と準備 • 保険証の確認  ◎ 校長講話 • 各係教師からの諸注意	
中	宿泊学習のしおり参照		
後	• 感想文等により、体験の深化統合	• 身についたものを、日常生活に生かす	

## V 現地集合指導計画（グループ・ラリー）

時 刻	係 教 師	指 導 の 概 要
AM 7 : 20		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 引率教師学校集合</li> </ul>
30 (大川) (久保田) (山崎)	(家住)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 玄関前で受付開始           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席者・健康状態のチェック・旅費・TEL代渡し</li> <li>・ 指令書NO2の配布</li> </ul> </li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 危険個所へ車で配送           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 足利市駅へ (高橋) (山崎)</li> <li>・ 中橋付近の危険個所での交通指導へ (秋山)</li> </ul> </li> </ul>
		<p>※ 1番電車の乗車班のチェック終了後、同乗し車内でのマナーを指導しながら、太田駅で下車をして指令書NO3を渡す。その後は、通過する班の乗り替えについてのチェックと指導をする。そして、最終班を待ち電車に同乗し、藪塚で下車後、集合地点まで同行する。</p> <p>(高橋)</p>
		<p>※ 最終班のチェック後、電車に同乗し集合地点へ。 (山崎)</p>
		<p>※ 最終班の通過を確認し、配送車に同乗し集合地点に先回りし、到着班のチェックと時刻の記入に当る。 (秋山)</p>
8 : 40	(家住) (大川) (校長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 後発隊、藪塚へ車で学校を出発する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受付終了後、車に同乗し藪塚駅前で降り、児童の到着を待ち、C・P4の地点を地図上に記し指示をする。そして、最終班と行動を共にする。 (大川)</li> <li>・ 車に同乗し、自然の家で降り挨拶を済ませ、キャンプ場にて全員の到着を待ち、以降は行動を共にする。 (校長)</li> <li>・ 各係教師を配送し、駅周辺コースを巡回指導をしながらC・P4で最終班チェックとC・P5の指示を地図上に示す。終了後キャンプ場にて合流。 (家住)</li> </ul> </li> </ul>
11 : 00		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ C・P5に全員到着を確認後、ハイキングをかねて自然の家に山越えで向かう。 (高橋)</li> </ul>
11 : 30	引率者全員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 自然の家キャンプ場全員到着           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昼食をとり、休憩。(雨天の場合、C・P5を自然の家に変更し、昼食は室内を借りられるよう交渉する。)</li> </ul> </li> </ul>
PM 1 : 00		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 入所式以降、別紙計画に準ずる。(児童はしおり参照)</li> </ul>

## IV グループ・ラリー指令書の採用

児童が自主的に計画した集合地点までの道筋を、教師が把握しておくことは大変重要なことである。一つは、児童の安全の確保、二つめは、不安の除去、三つ目は、ゲーム的な楽しさ、そして最後に、緊張感の持続、さらに計画遂行後の成就感をより高めるための工夫としてグループ・ラリーを取り入れた。その工夫として考えたことは、安全の確保のためのチェックポイント (C・P) にゲームをおくとともに、グループラリー指令書と称し次の通過地点や行き先を地図上に示してやったことである。

### 1. 指令書 N O 1 グループラリー

君は、この指令にしたがい、グループのメンバーと離れることなく東毛少年自然の家のある藪塚本町に着かなくてはならない。正確にしかも安全に、勿論他のグループと口を聞いてはならない。

君達の緻密な計画と冷静な判断力、そして勇敢な行動力に期待する。

それでは、藪塚であおう。……………では……………。

#### 指令 1

(1) 各グループは、別紙宿泊学習計画を立案し、9月4日（火）

午後12時までに、久保田先生に提出せよ。

遅れた場合は、不参加とみなす。……………ヨイナ？

(2) 9月6日（木）午前7時30分より毛野南小学校で受付を済ませ、行動を開始せよ。

その際、次のものを手渡すので、必ず確認せよ。

・ 指令書 N O 2

・ 旅費 一人120円×班の人数分

・ 雑費 ひとグループ50円（この用途については、指令書N O 2を見よ。）

(3) 毛野南小学校から集合場所までは、5ヶ所のチェックポイントがあり、グループ全員がそろわぬと通過することができない。ポイントは、指令書N O 2を見よ。

☆ くれぐれも危険な行動、自分勝手な行動は慎み、周りの人々へ迷惑のかからぬよう留意せよ。

毛野南小の一員であることの誇りをわすれるべからず。

それでは、第一ポイントでまた合おう。全員の無事を祈る。……。

サラバジヤ。

# 学習計画書

足利市立毛野南小学校

組 生活班 ( 班 )

☆ 今回の学習は、かくはんごとに現地集合とする。

◎ 集合場所は、群馬県蔽塚町の秘密の場所

(駅からの所要時間は、徒歩約 15~25 分)

◎ 集合日時は、9月6日 午前11時

## 1. グループ集合場所

- ・毛野南小の ( )
- ・時 刻 午前 時 分

## 2. コースとおよその到着時刻

(1) 第一チェックポイントまでのコース

(2) 予定到着時刻 (午前 時 分頃)

(3) 第一チェックポイントから蔽塚駅までのコース

## 3 安全のため、特に注意したいこと

グループ・ラリー 指令書 N O 2

1. 当日朝の確認事項

(1) グループ全員の健康状態のチェックをして報告せよ。

(2) 旅費は、グループの人数分があるか。

120円×( ) = 円  
雑費 = 50円 合計 円

(3) 毛野南小学校の電話番号は( 番)  
足利市駅乗車前の事故の連絡先

(4) 東毛少年自然の家の電話番号は( 番)  
薮塚に到着後の連絡先

★ 小銭50円は、なぜ必要か？ 途中で迷ったらどうする？

2. 次のチェックポイントは、必ず通過せよ。

これは、得点ゲームになっている。得点が低い場合は罰ゲームが待ち受けているのである。心せよ。

C・P	場 所	問 题
1	足 利 市 駅	太田方面のホームは何番か。
2	太 田 駅 の ホ ー ム	( )先生から指令書N O 3をいただいたか。
3	薮 塚 駅 前	( )先生からC・P 4の場所の指示をうけた。
4	?	C・P 4に待機していた先生の名は？
5	集 合 地 点	到着時刻を記入していただく。

3. 回答欄

	答 え の 記 入 欄	配 点	得 点
C・P 1	番ホーム	2 0	
2	先 生	2 0	
3	先 生	2 0	
4	先 生	2 0	
5	AM 時 分 到 着	2 0	

君達の班の合計得点は、( )点

★ 雜費50円の用途は、迷ったときの代である。

それでは、諸君の道中の無事を祈る。いってーらっしゃーい。

## 指令書 N°3

足利市立毛野南小学校

☆ よくぞ、ここまでたどり着いたな。だが、まだまだ、いよいよこれからが大変なのだ。

さあ、これが藪塚の地図である。

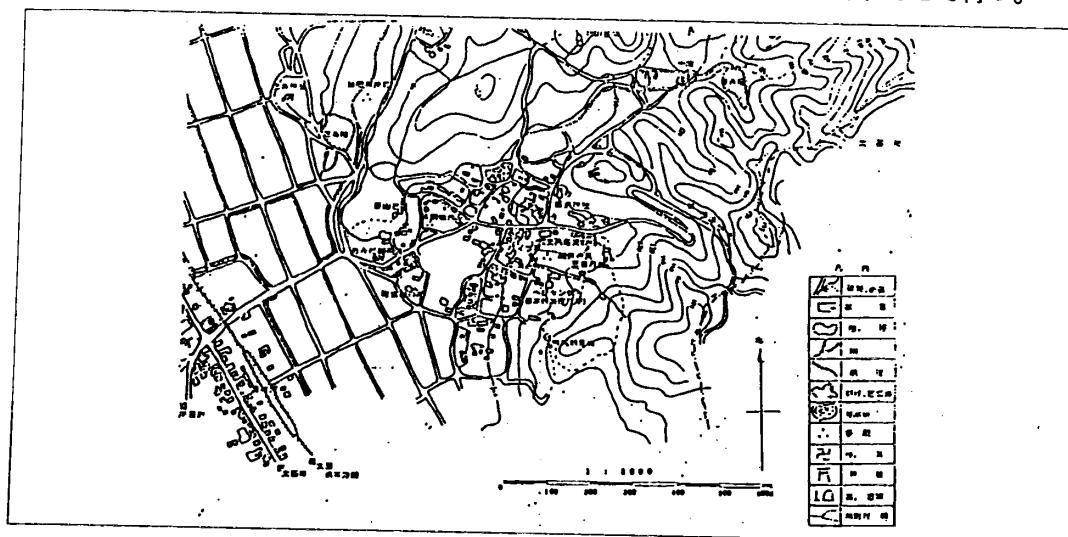
ここに、本日の秘密の集合場所がかくされているのだ。

しかし…………まだ教えるわけには行かないのだ。?

藪塚まで行くと、駅前に？先生が君たちの到着を待っているのだ。

謎のC・Pは、そこで聞くがよい。……………

とにかく、そこで待つ。



指令 良くぞ迷わず、君たちだけの力でここまでこられたな。

しかし、喜ぶのはまだ早い。

まだまだ、勝負はこれからだ。

謎のC・P 4はここだ。赤線で囲んでやる。

迷うなよ。そこは山の中ということだけ伝えよう。

## VI 実施前・後の児童の意識の変容

### 1. 体験前・後の意識の比較

調査人員 140名

(現地集合)	体験前の意識	(現地集合)	体験後の意識
	1. 今までに自分一人で、バスや電車に乗って、よその町や市に行ったことがありますか。		
・ある ( 6 %)	桐生・宇都宮 市内		
・ない (94 %)			
	2. 家族や親戚の人と旅行するとき、「時刻表」を使って調べたことがありますか。		
・ある (23 %)	ほとんど一緒に		
・ない (77 %)			
	3. 子供たちだけで「現地集合」すると聞いたとき、どんな気持ちだったか。		
・面白そうだ	(28 %)	・やればできる・自信になった (55 %)	
・興味はあるが、とても不安	(70 %)	・思ったより簡単	(27 %)
・嫌だ	( 2 %)	・良い体験	(15 %)
	4. 「現地集合」に対する、今の不安はどんな心配ごとですか。終了後その事についてどうですか。		
・道に迷ったら困る。	(34 %)	・協力ってすごい・信じられない・やればできる	(60 %)
・現地集合時間に遅れる。	(29 %)	・ほっとして安心した	(18 %)
・交通事故	(20 %)	・その他	(22 %)
・電車の乗り替え	(12 %)		
	5. 修学旅行の中に、例えば「東京から浜までは、班ごとに行く」という計画を考えていますが、貴方の意見はどうですか。		
		・是非ともやりたい	(67 %)
		・不安だがやりたい	(15 %)
		・絶対に嫌だ	(18 %)

## VII 結果の考察と今後の課題

「温室育ち」と言われる現代っ子ではあるが、調査をするまで「まさか、一人でバスに乗ったことのない児童が、5・6年生の94%」もあろうとは考えもしなかった事実である。確かに、マイカー時代に生まれ、育った子供たちではあるが…………。

習いごとや、塾の送り迎えに、確かに親の保護の手は留まることを知らず、エスカレートの一途をたどってきている。当然「モヤシッ子」の呼び名に代表されるような、ひ弱な子供たちが増加していることは認めざるを得ない事実でもある。しかも、この計画に当って、心配のあまり親が事前に敷塚までの行き方を教えるという笑えない事実もあった。

現代っ子に対する過保護は、家庭だけなのだろうかと考えたとき、学校の中でも社会の激変に伴った子供の「温室育て」に加担している部分が多くあるのではないだろうかと、時折考えずにはいられない。良いか悪いかは別として例にとると、学芸会での主役、脇役のはっきりするような劇を避け、どの子も並列になるような内容を選ぶこと。運動会においては、優劣のはっきり着く種目を避け、どの子にもチャンスがあるような種目を安易に好んで選ぶ、そして、とどのつまりは「忍耐力」の不足と嘆く。

物の書に「良い子を育てるのに理屈は要らない。成功体験と失敗体験をバランス良く与えることである。」と書かれているのを読んだことがある。

「体験」は何より勝る教科書である。あれほど「自分たちだけの力」でやることを不安がり、恐れていた子供たちがたった一度の見ず知らずの土地での「現地集合」という体験で、やればできる、自信が着いたと日々にいっている。それどころか、殆どの子が修学旅行にも取り入れて欲しいと願っている。

この変容は何がもたらせたのか、「体験」という教科書であろう。迷い、不安は当然の事ながら、多々あったことであろう。その度に、目・口・耳に救われたと言っている。

整然と一列歩行しての遠足や旅行も、一理あろう。しかし、数にかぎりのある教師がローテーションを駆使せずに行なうことのできない「現地集合」の素晴らしさもある。

教師の汗が、必ずや子供たちの肥やしや栄養になることに違いない。

今後、子供たちの希望を取り入れ、修学旅行の一部に「現地集合的な要素」を入れたいことはもちろんのこと、3日間の宿泊学習の内容等も、子供たちの自主的な計画・立案を試みてみたいと考えている。

一読し、ご意見、ご叱責がいただければ幸いです。

### ※ 参考文献

豊かさ、たくましさを育てる小学校教育  
体験学習の進め方  
集団宿泊活動の展開

全国連合小学校校長会編  
加藤幸次 編  
伊藤俊夫・坂本昇一 編著

## 評

体験を通して子供達が身につけるものはさまざまであろう。どうやればよいか分からなかったけれど、やってみてなるほど分かった。こうやればよかったんだ。あのときはああやって失敗してつまづいてしまったけれど、今度は失敗しないでやれる自信がついたぞ。いろいろ迷ったときにはみんなで落ち着いて考えればきっとよい方法が見つかることが分かったぞ…………。

毛野南小の子供達は毛野南小の先生方の、子供の動きを予想した事前のきめ細かな配慮と、危険に対する細心の注意に支えられ、やればできる、自信になった、協力し合ってすごいと一人一人の子供それぞれが成就感と満足感を味わうことのできる成果を上げることができた。

自分たちだけで電車に乗って目的地まで行くことのできたという経験は小さなものでも、子供達一人一人が味わった成就感と満足感は次の目標に向かってまたがんばってみよう、努力してみようとする意欲を与えてくれる原動力となるだろう。